

郡 市 医 師 会 長 様

新潟県医師会長
堂 前 洋一郎

小児の新型コロナウイルスワクチン接種の考え方について

新型コロナウイルスワクチン接種につきましては、医療従事者に続き高齢者の接種が進められているところですが、国からの要請もあり 7 月末には希望する対象者について概ね接種が完了する予定とされております。

県内各地域においては、65 歳未満の住民に対して接種券の配付等が開始されており、順次接種が進められることとなりますが、高齢者と比べて 12 歳以上の小児や若い世代では、接種部位の疼痛や発熱などの出現頻度が高いことが示されていることから接種率の低下が危惧されております。

本会では新潟大学医学部小児科学教室のご協力を得て、子どもや保護者への接種に関する注意点などをまとめた啓発資料を作成いたしました。

つきましては、業務ご多端の折まことに恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、貴会関係医療機関等への周知について貴職のご高配をお願いいたします。

なお、本会ホームページにも掲載してダウンロードできよう準備しておりますので、接種を希望される子どもへの保護者等への説明の際に併せてお渡しいただくとどご活用いただければ幸甚に存じます。

また、ご参考までに長野県が作成されているリーフレットもわかりやすくまとめてありますので、併せてご紹介させていただきます。

○長野県ホームページ「教えて！！新型コロナウイルスワクチン」

https://www.pref.nagano.lg.jp/kansensho-taisaku/vaccine/osiete_pfizer_moderna.html

子どもへの（12歳から15歳）新型コロナワクチン接種への対応について

6月16日に日本小児科学会および日本小児科医会から相次いで行われた提言を元に、新潟大学医学部小児科齋藤昭彦教授のご助言をいただいた上で、新潟県内における12歳から15歳までの子どもへの新型コロナウィルスワクチン接種についての対応について、その考え方を新潟県医師会として提案します。

1. まずは、基礎疾患のある子ども※と子どもに関わる業務従事者等（園・学校の教職員等）へのワクチン接種を最優先で実施すべきと考えます。
2. 12歳から15歳の子どもへの接種は基本的には個別接種で行うべきと考えます。集団接種を行う場合は、できる限りリスクを軽減するための対策と対応を十分に整備したうえで実施すべきと考えます。
3. 接種に当たっては、ワクチン接種のメリットとデメリットに関して、本人および保護者に個別の十分な説明と接種後の慎重な対応が必要と考えます。
4. ワクチン接種を希望しない子どもと保護者に対しては、周囲からの差別や非難を受けないような配慮をすべきと考えます。

健康な12歳以上の子どものワクチン接種を勧める理由

健康な12歳以上の子どものためのワクチン接種は総合的に考えて、積極的に、かつ、丁寧に進めるべきと考えます。ワクチンを接種することで、重症化、そして感染を予防することが可能です。それによって感染予防のための様々な制限のある生活下にある子どもたちの心身の健康への影響を減らすことができること、子どもにもまれながらも起こる合併症を予防できること、周囲の感染源とならないこと、集団免疫を獲得できることなどが可能となります。

大人とは違う小児への配慮が必要な理由

小児 COVID-19 感染者が無症状や比較的軽症である一方で、国外での小児のワクチン接種において、接種後の発熱や接種部位の疼痛などの副反応の出現頻度が大人と比べて高いことが報告されています。最近、若年者にほとんどが軽症とはいえ、ワクチン2回目接種後の心筋炎の報告もあり、今後、子どもの接種が世界的に増加するにつれて、どのような副反応がどの程度、発生するかについては不明の点もあり、注意深く情報を集めていく必要があります。一方で、このような起こりうるデメリットについて、分かりやすく丁寧に説明する必要があります。その上で、接種によるメリットも説明した上で、本人と保護者でよく考えてもらう必要があります。ワクチン接種時の緊張などからくるこの年齢特有の接種直後に起こる血管迷走反射や、ヒトパピローマウイルスワクチン接種後に経験したような接種後

時間が経過してから慢性的な疼痛や種々の不定愁訴等への対応が必要となります。

※ 基礎疾患のある子どもとは

国外では、神経疾患、慢性呼吸器疾患および免疫不全症を有する子どもの新型コロナウイルス感染症例において、COVID-19の重症化が報告されています。国内においても接種対象年齢となる基礎疾患のある子どもの重症化が危惧されますので、主治医と相談の上でワクチン接種を積極的にすべきと考えられます。

主な基礎疾患は以下の通りです。詳しくは、1) および2) をご参照ください。

難治性喘息、その他の慢性呼吸器疾患

先天性心疾患（チアノーゼや心不全症状がある、または治療ないし運動制限を受けている、不整脈、肺高血圧、手術予定など）

慢性腎疾患、末期腎不全、腎移植患者

脳性麻痺、難治性てんかん・神経疾患、染色体異常症、重症心身障害児・者

血液疾患（白血病、再生不良性貧血、原発性免疫不全症候群など）

糖尿病・代謝性疾患

小児がん

リウマチ性疾患・自己免疫疾患・自己炎症性疾患・血管炎症候群

内分泌疾患（副腎機能不全、下垂体機能不全、甲状腺機能亢進症など）

消化器疾患・肝疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病、自己免疫性肝炎、肝硬変など）

H I V感染症・その他の疾患や治療に伴う免疫抑制状態

精神障害者保健福祉手帳を所持している、又は自立支援医療（精神通院医療）で「重度かつ継続」に該当する場合）や知的障害（療育手帳を所持している場合）高度肥満（BMI30 以上）

- 1) 厚生労働省：第 43 回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会（2020 年 12 月 25 日開催） 資料（日本小児科学会提出文書を含む）．
<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000711250.pdf> (2021 年 6 月 20 日アクセス)
- 2) 厚生労働省：新型コロナウイルスワクチンの接種順位の上位に位置づける基礎疾患を有する者の範囲について（令和 3 年 3 月 19 日事務連絡）
<https://www.mhlw.go.jp/content/000756902.pdf> （2021 年 6 月 21 日アクセス）

2021 年 6 月 21 日
新潟県医師会

12～15 歳の子どもへの新型コロナウイルスワクチン接種の手引き

『新潟県医師会は、子どもへのワクチン接種を推奨しています』

新潟県医師会

12～15 歳の子どもに対して、新型コロナウイルスワクチンをどのように接種したらよいのか、その考え方や対応の仕方をまとめました。今後の接種の参考にしてください。

● ワクチン接種のメリット・デメリット（別紙リーフレットあり）

事前に保護者と子どもに情報提供をして、あらかじめ考えてきてもらう。

1-1) ワクチンを接種するメリット

- ・新型コロナウイルスに感染しにくくなる。
- ・万が一感染しても症状が出にくくなり、また周りの人にうつしにくくなる。
- ・これからの授業や部活動、旅行などへの行動制限が緩和される可能性がある。

1-2) ワクチンを接種するデメリット

- ・ワクチン接種後、数日間は肩の痛み、頭痛、倦怠感、発熱などの副反応が出ることもある（特に2回目の接種後に頻度が高い）。

- ・心筋炎・心膜炎のリスクがある

米国では、2 回目の接種後、16-39 歳の 100 万人中 12.6 人に軽症の心筋炎・心膜炎が認められた（尚、新潟県の 12-15 歳人口は令和 3 年 1 月 1 日時点で約 7.4 万人である）。

2-1) ワクチンを接種しないデメリット

- ・ワクチンの副反応がない

2-2) ワクチンを接種しないデメリット

- ・新型コロナウイルスが流行している限りは、マスク、手洗い、換気などの感染対策以外には追加の対策ができず、感染リスクを更に減らすことができない。

- ・感染した場合、

稀ではあるが重症化のリスクがある。

周りの人にうつす可能性があり、2 週間程度、隔離される。

味覚、嗅覚障害が起こり、それが遷延する可能性がある。

- ・自分が感染する、人に感染させるリスクから、今後行動制限を継続する必要がある。

● ワクチン接種前後の対応において、子どもで特に気をつけるべき点

- ・特に思春期では、予防接種ストレス関連反応が発生しやすい。これを発症しやすいリスクとして、注射への不安が強い、起立性調節障害を持つなどがあげられる。
- ・ワクチン接種前後の不安、恐怖などのストレスを契機として、血管迷走神経反射が起こり、失神することがある。
- ・周囲の子どもの様子などの影響を受けて連鎖して生じることもある。
- ・予防するためには、下記のこと重要である。

- (1) 事前にワクチン接種に関する十分な説明を行い、不安の除去に努める
- (2) 落ち着いた雰囲気ですくワクチン接種を行う
- (3) 接種後 15 分は椅子に腰掛けるかベッドで臥床する
- (4) 失神を起こす恐れがある場合には、あらかじめベッドで臥床した状態でワクチン接種し、接種後 30 分間は体調の変化を観察する。

● 集団接種を行う際の注意点

- ・学校などの会場で行う一般集団接種とし、学校医を中心に医師、看護師、事務職などが担当する。
- ・子どもや保護者への十分な説明のための時間を確保することは、接種当日だけでは困難なため、事前に説明文書を配布し、読んでおいてもらう。
- ・接種後に起こりうる副反応に対して、迅速な対応が可能な体制を準備する。具体的には、アナフィラキシーに対する処置やその後の搬送先医療機関の選定など。
- ・接種当日帰宅後の体調不良時の対応もあらかじめ決めておく（かかりつけ医へ受診など）。
- ・接種を希望しない子どもたちの心理的負担を減らし、また、特定されにくくなるように、放課後や休日、長期休業期間などに接種日を設定する。
- ・特別支援学校など、重症化リスクとなす基礎疾患をもつ子どもが複数在籍していて、それぞれが個別接種のためにかかりつけ医を受診する負担が大きい場合には、集団接種を積極的に考慮してもよい。

● ワクチンを接種しない子どもが差別やいじめを受けない配慮が必要である

- ・ワクチン接種は強制ではない。
- ・様々な理由でワクチン接種ができない、希望しない人もいるので、その判断は尊重されることを子どもと保護者に理解を求める。

(参考文献)

日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会 新型コロナウイルス～子どもならびに子どもに接する成人への接種に対する考え方～（2021 年 6 月 16 日）

・12 歳以上の小児への新型コロナウイルスワクチン接種についての提言・日本小児科医会（2021 年 6 月 16 日）

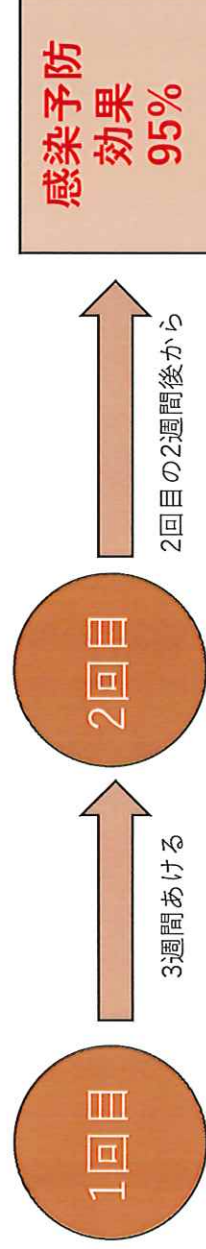
・事務連絡 新型コロナウイルス感染症に係る予防接種を生徒に対して集団で実施することについての考え方及び留意点等について（2021 年 6 月 22 日 文部科学省・厚生労働省）

・予防接種後の失神に対する注意点について・日本小児科学会予防接種・感染対策委員会 声明（2009 年 9 月 27 日）

監修：新潟大学小児科 2021 年 6 月 30 日作成

子どもに新型コロナウイルスワクチンを接種する メリット、デメリットを考えてみます

新型コロナウイルスワクチンのスケジュール



ワクチンを接種する

メリット

- 新型コロナウイルスに感染しにくくなる
- 万が一、新型コロナウイルスにかかっても症状が出にくく、重症化を防ぐことができ、周りの人にもうつしにくくなる
- これからの授業や部活動、旅行への行動制限(ガマン)が緩和される可能性がある

デメリット

- ワクチンを接種したあと数日間は肩の痛み、頭痛、だるい、熱が出るなどの副反応が出ることがある
特に2回目の接種後に頻度が高い
- 心筋炎・心膜炎のリスクがある
米国では、2回目の接種後16-39歳の100万人中12.6人に軽症の心筋炎・心膜炎が認められた
(新潟県の12-15歳の人口は令和3年1月1日時点で約7.4万人)

ワクチンを接種しない

メリット

- ワクチンの副反応(副作用)の心配がない

デメリット

- マスク、手洗い、三密回避以外には追加の対策がなく、感染リスクを減らせない
- 感染した場合、稀ではあるが重症のリスクがある
- 感染した場合、周りの人につつす可能性があり、2週間程度隔離される
- 味やにおいがわかりにくくなりそれらの症状が長く続くことがある
- 自分が感染する・人に感染させるリスクのために、行動制限(ガマン)を今後も続ける必要がある



日本小児科学会
子どもへの接種の考え方

2021年6月末までのデータに基づいて記載しています
監修 新潟大学小児科

新潟県医師会は、子どもへのワクチン接種をお勧めします